

決などで参加していただき、アドリブをきかせた笑いあふれる企画となりました。年忘れVTRは研修医室のアイドル田中を主人公としたドラえもののパロディを上映しました。(視聴したい方は研修医室までどうぞ。)田中扮するダメ研修医の成長してゆくエピソードが面白おかしく、そして感動的に描かれており、誰もがハンカチ片手にスクリーンを見つめていました。(視聴したい方は研修医室までどうぞ。)指導医の先生方ともいろいろとお話をさせていた

だき、今でしか聞けない研修の裏話や先生方の本音などをうかがうことができ、有意義な時間を過ごさせていただきました。

また、平成23年を締めくくる挨拶を先生方にしていただき、新年に向けて研修医たちは新たな決意を胸に気を引き締めたのです。お忙しい中参加して下さった多数の先生方、開催にあたってご尽力くださったスタッフの方々、本当にありがとうございました。



### 文部科学省 山陰と阪神を結ぶ 高度医療人養成プログラム FD講習会の実施報告

コーディネーター 植木 賢

平成24年1月12日(木)、医療人のやりがいづくり  
～コーチングコミュニケーションによるチーム医

療の構築～と題してFD講習会が開催されました。

講師は、畑埜(はたの)義雄先生で、和歌山県立医大の名誉病院長です。大学病院から人が離れていく現状を改善するため、『人がやめない組織づくり』を研究し、“人が集まる病院”に変革させた先生です。

まず先生は、組織から離れてしまう人の特徴として、1. 疲れる、2. 認められていない、ことを挙



げられました。逆に言えば、この2つのことがおこらない環境づくりをすれば、人がやめない組織づくりができる、とお考えになりました。そこで、スポーツの世界では有名な『コーチングの技術』を用いたコミュニケーションを病院に導入しました。コーチ(Coach)とは馬車であり、大切な人をその人が望むところまで送り届ける、という意味を含んでいます。コーチングでは、「答えは、その人の中にある」という基本があり、コーチは正解を提示するのではなく、聞き役に徹することで目標を明確にし、自発的な行動を促します。

畑先生は、1. 聞く 2. 質問する 3. 認める、の3つの技術を使って、職員が疲れていないか気遣い、相手を認めることを実践されてこられました。診療科や職種の違いによる垣根を越えて、それぞれの個性や考え方を認めることが、“医療人のやりがいづくり”に重要な要素であることを学ばせていただきました。


看護師や事務、医師、薬剤師など、すべての職種の方々が、仕事にやりがいを感じ、みんなが輝きながら患者を中心としたチーム医療を実現するための鍵をいただいた講習会でした。

山陰と阪神を結ぶ医療人養成プログラム | 平成23年度鳥取大学医学部附属病院「FD講習会のお知らせ」

# 医療人のやりがいづくり

コーチングコミュニケーションによるチーム医療の構築

講師  
**畑 義雄** 先生  
和歌山県立医大麻酔科名誉教授  
臨床コーチング研究会会長



平成24年  
**1月12日** 木  
PM 5:30 → 7:00

- 会場 鳥取大学医学部421講義室(臨床講義棟2階)
- 対象 全職員
- 連絡先 卒後臨床研修センター TEL (0859) 38-7025

※講演の様子をDVDに録画しております。ご視聴希望の方は卒後臨床研修センターまでどうぞご一報ください。また、講習会には80名もの多くの方々にご出席いただき、盛会に終えることができました。この場をお借りして、心より厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



## 医局探訪

～ 麻酔科、いたみ緩和ケア科の巻 ～

麻酔診療科群 講師 山崎 和雅

今回は麻酔科の紹介をします。

### 教室の歩み

1966年に佐藤暢先生が初代教授として就任し、麻酔・蘇生学講座が開講されました。佐藤教授のもとペインクリニック外来、集中治療室、救急部が開設されました。1997年には石部裕一先生が第2代教授に就任され、2002年には麻酔・集中治療医学分野に名称変更しました。2005年、稲垣喜三先生が第3代教授として就任し、現在に至っています。

### 教室の活動

#### 1) 臨床

大きく分けて手術麻酔、集中治療、ペインクリニックの3つの柱で活動しています。

麻酔に関しては、2009年度の麻酔科管理症例は約3,700件でした。全国国立大学手術件数でもTOP10に入る症例数で、様々な症例を経験することができます。近年は血管内ステント手術、血管内コイリング手術の増加により、手術室外での麻酔管理症例も増加しています。集約化が進む地域医療の中、地域の基幹病院として年々増加する手術件数に対し、

対応しています。忙しい中でも、高い質で安全な麻酔管理と緊急対応可能な柔軟な手術室運営を心がけています。救急災害科が新設されたことにより、集中治療部は術後管理や内科的な集中治療にシフトしています。外来診療としては、週3回のペインクリニック外来と術前診察外来を開設しています。ペインクリニックでは神経ブロックのみならず、漢方、鍼灸などの東洋医学を取り入れた、幅広い視野から疼痛管理を行なっています。脳脊髄液減少症の専門外来も開設しました。また、緩和治療チームにも加わって、がん性疼痛コントロールを中心に活動しています。

## 2) 教育

学生、初期研修医、外科系各科からの研修医に対して、質の高い教育をすることにより、地域全体の麻酔、周術期管理の質を向上させることができると信じ、熱い指導を行なっています。

## 3) 主な研究内容

前石部教授より引き継いだ肺障害に関する基礎研究と、稲垣教授が率いる臨床研究がメインです。レミフェンタニルと硬膜外麻酔のストレスホルモンへの影響、遺伝子多型の麻酔薬効果に対する影響、筋弛緩薬の低酸素性肺血管攣縮への影響、サリドマイドの肺障害への影響などを主なテーマとしています。

## 4) 社会貢献

日本のトリアスロンの発祥で、一番古い歴史を持



入局者を掬いとるぞ！

つ皆生トリアスロンに、毎年10名前後の医局員が医療チームとして参加し、陰から大会の安全を支えています。



**教室の日課**

教室の毎日は、午前8時からのモーニングカンファレンス（通称：朝カン）での論文紹介で始まります。午前8時15分よりICUの申し送りを行い、麻酔症例の問題点を報告します。午前8時30分より楽しい手術麻酔開始、ICU、外来に分かれて仕事開始です。午後4時30分からICUカンファレンスで、新入室症例と入室症例の経過報告と治療方針の検討を行います。午後5時予定手術が終われば業務終了で、その前後に術前診察を行います。

**運営方針**

稲垣教授の教室の運営方針は「自由で、みんなが楽しく働ける教室」。その通りにみんな自由に楽しく自主的に毎日仕事をこなしています。

**今後の展望**

臨床業務や研究活動において、他の大学や医療施設とはひと味違う特徴を持った麻酔科と麻酔科関連医療を作りあげたいと思っています。「山椒は小粒で、ピリリと辛い」を目指して、日々努力しています。



## 今後の予定

### ① 鳥取大学医学部附属病院臨床研修修了証書授与式の開催について

日時：平成24年3月28日(水) 14:00～15:00

場所：鳥取大学医学部附属病院 会議室2

医科研修医、歯科研修医がそれぞれの臨床研修を修了して羽ばたいていきます！  
今後も温かい御指導をよろしくお願いいたします。

### ② 平成24年度新採用職員オリエンテーションの開催について

日時：平成24年4月2日(月) 9:00～

場所：鳥取大学医学部記念講堂

4月採用医科、歯科研修医、看護師、コメディカルのフレッシュマンオリエンテーションを開催します。夢を実現できるよう応援します。



### 編集後記

極めてストレスフルな医師国家試験も終わり、卒業生のみなさんは意気揚々とされていることと思います。おつかれさまでした。気を緩めることなく研修され、2年後には母校に帰って頑張りましょう。

(谷口文紀)



### 鳥取大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター

〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1

TEL: (0859) 38-7025 FAX: (0859) 38-6974

e-MAIL: [sotsugo@med.tottori-u.ac.jp](mailto:sotsugo@med.tottori-u.ac.jp)

URL: <http://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/sotugo/>